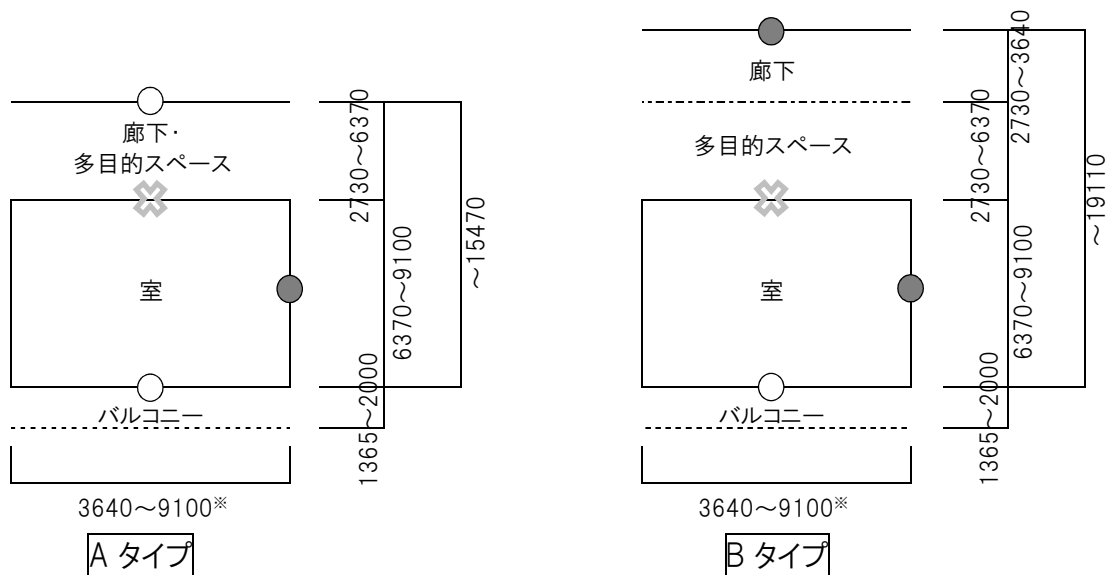


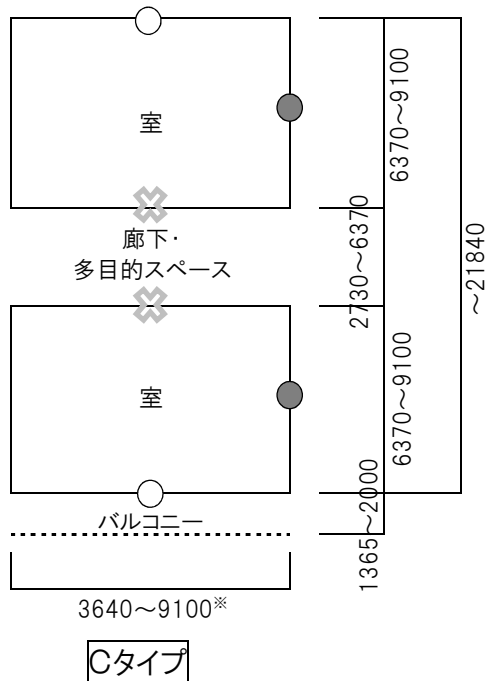
ワーキンググループで検討している JIS A 3301 に規定する木造校舎について

1. ユニットプラン

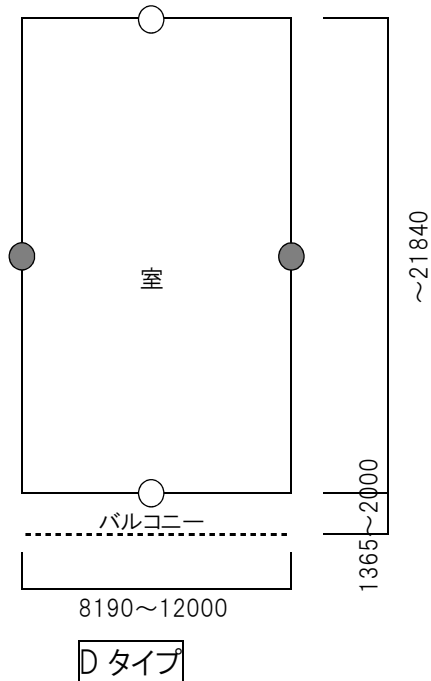
《片廊下型》



《中廊下型》



《大部屋型》



- ① ————— すべて耐力壁となる耐力壁線
- ② —●— 開口部が1/3程度ある耐力壁線
- ③ —○— 耐力壁が1/3程度ある耐力壁線
- ④ —⊗— ③で耐力壁がブレース等の光・風を通すタイプのもの
- ⑤ - - - - - 耐力壁なし、柱のみ(柱間隔≦3.2m)の鉛直構面
- ⑥ - - - - - 耐力壁なし、柱のみ(柱間隔≦6m)の外部鉛直構面

※2 ユニット並ぶ場合は、2 ユニットの合計寸法の範囲内で、片側1ユニットを12000まで拡張することができる。

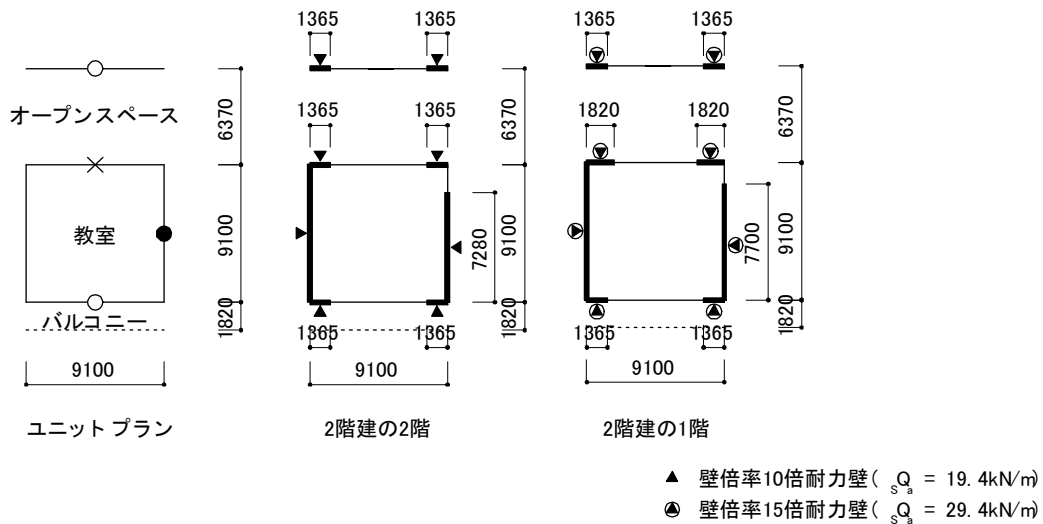
2. 構造上必要な耐力壁の検討

・地震力や風圧力等の水平力に対しては、各階の梁間方向及び桁行方向に耐力壁を釣り合いよく配置する計画とする。このときの耐力壁の配置は、ユニットプランあるいはそれらの組み合わせに対して、壁量計算の考え方にに基づき、下表の区分に応じて当該耐力壁の長さに耐力壁の壁倍率を乗じて得た長さの合計が、その階の床面積に表に掲げる数値を乗じて得た数値以上となるように計画する。

表 階の床面積に乗ずる数値

建築物	一般地域		多雪地域
	軽い屋根	重い屋根	
2階建の2階	0.4	0.5	屋根の仕様に応じて垂直積雪量 1mあたり 0.15 を左記の数値に加えた値とする。
2階建の1階	0.8	0.9	
1階建	0.3	0.4	

・耐力壁は、建物の規模や確保可能な壁長等、さまざまな状況が想定されることから、要求性能が広範にわたることを鑑み、壁倍率相当で 5 倍、10 倍、15 倍の 3 種類による計画とする。



耐力壁配置の例(Aタイプ、軽い屋根/一般地域)

・耐力壁の種類は、面材張り耐力壁に加え、採光や開放性確保のため筋かい系の開口を有する耐力壁の 2 種類で構成する計画とする。

・実際の設計にあたって構造計算を行う際には、建物全体として水平力に対して所要の耐力が確保されていることを確認することに加え、偏心率や層間変形角等の規定を満たすことを確認する。